

## 参加しよう もしものための 防災訓練

(令和3年度東京消防庁防災標語 作者：小竹 亮輔さん 台東区在学)

### 《防災の日と防災週間》

大正12年9月1日に発生した関東大震災、昭和34年9月に襲来した伊勢湾台風などをきっかけとして、昭和35年の閣議によって「防災の日」が定められました。

また、全国的に行事を展開するため、8月30日から9月5日を「防災週間」とすることが、昭和57年の閣議によって定められています。

災害の被害を軽減するためには、防災訓練等の取組みを継続的に行い、地域の防災行動力を維持向上させることが非常に重要です。防災の日と防災週間をきっかけとして、一つでも多く、防災に関する行動を実践していただきたいと思います。

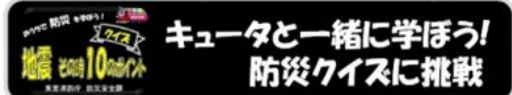


8月30日(月)～9月5日(日)は防災週間  
9月1日(水)は防災の日

おうちで防災を学ぼう!

### リモート防災学習

東京消防庁ホームページでは、防災訓練動画の視聴やクイズに挑戦できる「おうちで防災を学ぼう!リモート防災学習」を開設しています。ぜひ挑戦してみてください。



リモート防災学習はこちら

### 町会の皆様へ

昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、各町会での防災訓練の実施が難しい状況となっており、地域の防災意識の低下が危惧されます。

そこで、8月30日から始まる防災週間を機に、リモート防災学習を実施してみたいかがでしょうか。東京消防庁のホームページを活用し、訓練動画をみたり防災クイズなどに挑戦して、防災行動力を高めましょう。



## リチウムイオン電池からの火災に注意しよう ～使わなくなった小型充電式電池はリサイクルを～



電気は、私たちの日常生活において必要不可欠なエネルギーとして社会の隅々まで深く浸透しています。その一方、電気や電気製品にかかわる火災は、東京消防庁管内で毎年1,000件以上発生しており、全火災件数に対する割合は近年大きく増加しています。

増加傾向の内訳として、携帯端末などを外出先でも充電できるモバイルバッテリーなどが急速に普及し、これらに使用されているリチウムイオン電池からの火災が増えています。

### 《火災事例》 可燃ごみ回収中の清掃車から出火

この火災は、可燃ごみに混ざって廃棄された充電式電池が押し潰されたため、充電式電池内で短絡を起し、出火したものです。

作業員は、路上で可燃ごみ回収作業中に後方の荷箱内から煙が出ているのを発見し、119番通報をしています。



焼損した清掃車



荷箱内の燃えたごみ



潰れて燃えた充電式電池

## 最近流行りの

# ハンディファンの取り扱いに注意！

最近、使用される機会が増えているハンディファン（携帯用小型扇風機）ですが、リチウムイオン電池のバッテリーが内蔵されているものも多く市販されています。ハンディファンを使用している際に、落下の衝撃によりバッテリーから出火する場合があります。使用時は、手首にひもを通すなどで落下による衝撃を防止し、出火防止に努めましょう。

### 日本堤消防署管内の災害状況[令和3年中]

(令和3年8月1日現在)

火災件数	7件
焼損床面積	6㎡
救助件数	89件
救急件数	3096件

### お問合せはこちらまで

日本堤消防署 03-3875-0119

日本堤消防署今戸出張所 03-3873-0119

日本堤消防署二天門出張所 03-3845-0119

E-mail nihondutumi2@tfd.metro.tokyo.jp

メールマガジンについてのお問合せは日本堤消防署警防課防災安全係にて受け付けております。